

宮繕のあゆみ'95



沖縄県土木建築部施設建築室

目次

1. 目次・あいさつ	1
2. 特集1 平和の礎	2
特集2 沖縄県自治研究所及び女性総合センター	5
特集3 沖縄県立新平和祈念資料館（仮称） 設計プロポーザル・エスキス競技	7
3. 工事紹介	
総務部	9
生活福祉部	9
環境保険部	11
病院管理部	12
商工労働部	14
農林水産部	15
土木建築部	17
教育庁	21
4. 参考資料	
工事概要一覧	24
過去5年間の工事費及び工事件数推移	28
予算分任及び事業の流れ	28
5. 沖縄県行政機構図	29
6. 編集スタッフ・編集後記	30

「営繕のあゆみ'95」の発刊にあたって

建築はその土地の気候風土とそこに住む人々の生活文化、歴史を反映したものとして生成発展しているものです。とりわけ本県の建築は地理的、気候的特質に立脚した特性を反映して独自の建築形態を有し、その集積として今日の都市景観を形成しています。また、近年の高度情報化、国際化、高齢化といった社会の変動や要請は、公共建築の分野においても時代の流れを察知した、より先導的な計画や技術的対応が求められています。

こうした状況下、沖縄県では積極的にコンペ、プロポーザル・エスキスといった設計者の選定方法を採用してまいりましたが、このことは単に良い作品や作者を選定するにとどまらず、来るべく21世紀の新時代を先取りした提案を行うとともに沖縄の気候風土に適した建築計画と文化・歴史に根ざした景観を生み出す契機となることも期待しているところです。さらに、施設建築室では公共建築物の建設を未来や次の世代へ継承していく貴重な財産の蓄積として捉え、常に先駆的な営繕行政を進めていきたいと考えています。

本誌は、平成7年度に完成した沖縄県の公共建築物や実施された設計競技等の記録を収集掲載したものです。本誌がこれからの営繕行政の一助となれば幸いです。最後にこれからの事業に関わりました関係各位と本誌の発刊にあたりご協力いただきました関係者に対し厚く御礼申し上げ、発刊の挨拶とします。

沖縄県土木建築部施設建築室長
長山長弘



特集1

平和の礎

平和の礎建設事業は、去る沖縄戦で貴い命を失ったすべての人々に哀悼の意を表すとともに、悲惨な戦争の教訓を後世に正しく継承していくため、沖縄戦戦没者の一人一人の氏名を刻んだ記念碑「平和の礎」を建設することにより、沖縄の歴史と風土の中で培われた「平和のこころ」を、あまねく広く内外にのべ伝え、世界の恒久平和の確立に寄与することを願うものである。

このため、平和の礎のデザイン及びアイデアについては、広く国内外から公募し、274作品の中から大賞1点が選ばれ、基本設計の骨子として採用した。

大賞作品受賞者「グループ購」（仲間憲恵、和宇慶朝健、赤嶺和雄、渡久地克子）



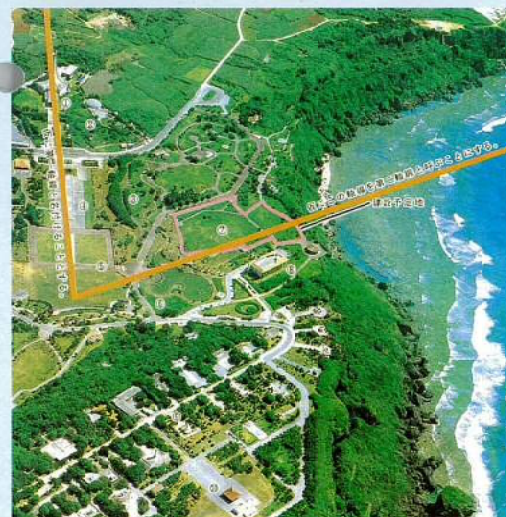
配置計画における軸線

平和祈念公園の中心地点と見なされる位置は、毎年6月23日に開催される戦没者追悼式場の祭壇の位置である。その地点と平和祈念堂を結ぶ線一つの軸線として設定し、仮に第一軸線と名付けることとする。「平和の礎」の配置計画においては、この第一軸線と関連する軸線を設定することとした。仮にこの軸線を第二軸線と呼ぶこととする。

「平和の礎」建設予定地における6月23日の午前6時頃の、日の出の方位角は北から東へおよそ69度にあたる。

戦没者追悼式場を起点として方位角69度の線を起こし第二の軸線を設定する。この軸線に「平和の礎」のメイン園路の中心線とする。

第二軸線は、平和の広場、及び平和の火、の中心を通過して遠彼方の水平線に延びる。水平線はそのままに壮麗で雄渾な東雲が映えて、日の出の瞬間を待つという設定で計画する。



1) 園路

メイン園路は、第二の軸線を中心線にして、舗装巾員7m両サイドの並木樹間距離10mで本園のメインアプローチとして平和の広場に到る主要をなす施設である。

第二の軸線上、平和の火の中心点を円心とし、第二の軸線の左右に軸線とそれぞれ30度の角度で放射状にのびるサブ園路を計画する。

「平和の礎」エリアを構外と画する園路を設ける。

2) 刻銘碑

「平和の礎」の中心施設である刻銘碑の配置は、平和の火の中心点から同心円で9m間隔のピッチで放射状に円弧の形で広がりをもって配置される。

3) 平和の広場・平和の火

「平和の礎」のターミナルとして人々が参集する場所として設定する。位置は東側の端、標高約50mの断崖絶壁の頂上部分で眼下は礎に砕ける波となって、わだつみに折り返し行くコンセプトを学習し、実体験できる場所として設定する。

広場の中央と同じく同心円のサークル上の中に平和の火を灯すモニュメントを設ける。モニュメントの周囲は、洗みなく溢れ出る泉水で浸水し、容易に火に近付くことが出来ないようにする。

特集2 沖縄県自治研修所及び女性総合センター



建物配置計画

工業地域の中にあって貴重な憩いの場となるであろう、豊麗広場をできるだけ広くとりその豊麗広場を囲むように建物を配置し南側、西側には、建物を一周できるサービス通路を設ける。

豊麗広場を中心に西側に自治研修部門、南東側に女性総合センター部門、西側に多目的ホール・体育館部門、北東側にコミュニティ広場を設置し建物をセットバックさせ道路側への威圧感をできるだけおさえた施設配置とする。

施設へのアプローチは、北東側コミュニティ広場から豊麗広場を通り1階エントランスへと誘い込む。また、円形状のオープンデッキの利用により2階サブ玄関へも直接アプローチできるように計画する。

女性総合センター部門

- 1階フロア全てと東道路側に配置し、できるだけ低層階として道路側への威圧感を小さく配置する。
- 東道路側は、建物をセットバックさせ、緑を多く配置したコミュニティ道路を設けるとともに、壁は曲面とし、女性らしい優しいイメージを作り出す。

自治研修部門

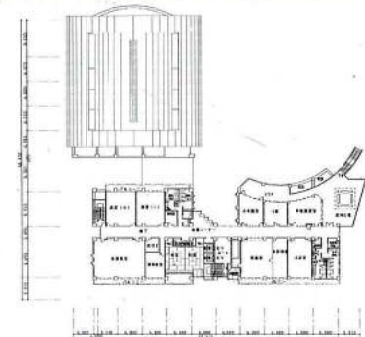
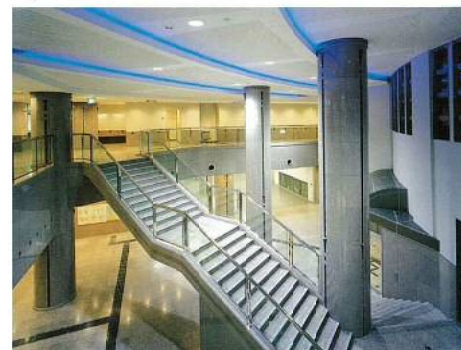
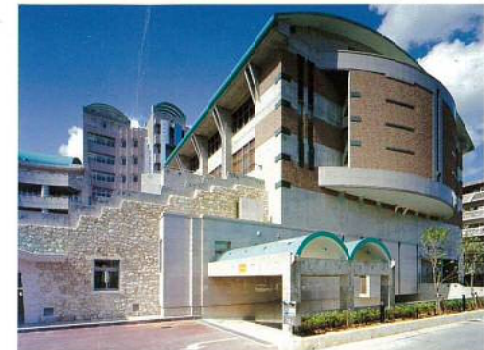
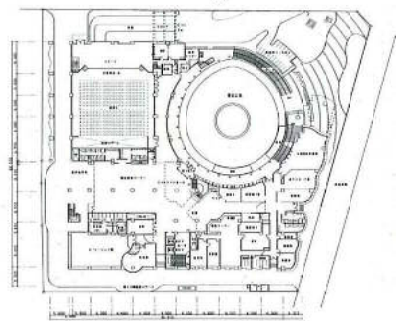
- 敷地南西側で、かつ、2階以上の上層階の最も静かな場所に配置する。
- 女性総合センター側との動線が、できるだけ交差させぬよう部屋配置を考慮する。また、2階事務室へは、オープンデッキを通り直接外部からアクセスできるように計画する。

豊麗広場

- 施設利用者だけでなく、地域住民の憩いの場となるコミュニティ広場と連続した位置にあり、また、多目的ホールとの一体的利用もできる位置となっている。
- 一時に多数の人々の集合、離散が可能で、更に緊急時には安全に避難できる広場となる。また、オープンデッキと一体化した造りとし、2・3階の外部出入口と接続する。

建物概要

所在地	沖縄県那覇市西3丁目11番1号
構造	自治研修所部門 鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造） 女性総合センター部門（消費生活センター及び女性就業援助センターを含む。） 鉄骨鉄筋コンクリート造（一部プレストレストコンクリート造）
階数	自治研修所部門 地下1階・地上2階～地上8階・塔屋1階 女性総合センター部門 地下1階～地上5階
建築面積	3,537.436㎡
延床面積	15,823.566㎡
高さ	自治研修所部門 7,997.402㎡ 女性総合センター部門 7,826.164㎡ GL=那覇港平均海面高さ+3.0m 1階の床高さGL+1.0m 自治研修所部門 軒高さGL+33.1m 最高の高さGL+41.3m 女性総合センター部門 軒高さGL+21.7m 最高の高さGL+41.3m
駐車台数	108台（地下99台・地上9台）



特集3 沖縄県立新平和祈念資料館（仮称）設計プロポーザル・エスキス競技



沖縄県立新平和祈念資料館（仮称）は、平和の発信地沖縄の中核施設として、悲惨な沖縄戦の実相と併せて、戦後27年にも及ぶ異民族による軍事支配下での沖縄の状況及び今なお続く軍事基地の存在に起因する人権抑圧や基地被害等の苦悩など沖縄の歴史的体験から平和の尊さを訴えるとともに、さらに、「沖縄のこころ」を原点に国際平和の創造に寄与することを目的に建設するものです。

このプロポーザル・エスキス競技は、平成7年度に実施され、応募総数52点の中から、team DREAM（代表 比嘉憲哲）が最優秀賞として選定された。

沖縄県立新平和祈念資料館（仮称）設計コンセプト

1 公共建築に対する基本的考え方

公共建築は、本来、その地域、その時代の社会的文化的総合表現であると理解している。しかも、常に先駆的であらねばならない。言い方を換えれば、その地域、その時代を建物という形でもって、現在、そして未来を如実に現すものでなければならぬ、と考える。

内部機能を満たすための容器として考える、無難な建物であってもならないし、また、その時代、その地域の将来とかけ離れた、個人的趣味・好みだけを追求した表現であってもならない。

つまり、建物の計画される地域の風土、歴史、文化の流れをくみながらも、これから先の文化や社会の流れを予見し、地域の未来をそこに映し出すような建築であるべきだと考える。

しかしここでは、将来を感じさせるような先駆的なファサードをもつ建築表現はひかえることとし、過去の集落的な雰囲気や個性を漂わせながら表現をおさえ、内部の展示に重点をおくものとする。



2 沖縄県立新平和祈念資料館（仮称）のあり方

及び平和祈念公園内での位置づけ

この建物は、50年前の忌まわしい戦争をしっかりと歴史の中に位置付け、二度とこの様な事が起こらないようにするための「祈念資料館」である。

他のどの公共建築よりも、はるかに重責を担った施設である。この施設が計画されている場所も、沖縄戦終焉の地であり、国立戦跡公園に指定されるなど景観としても重要な所である。施設規模としては、約8,000㎡もあり、このような歴史的に意味ある敷地で、極めて規模の大きい建物である。

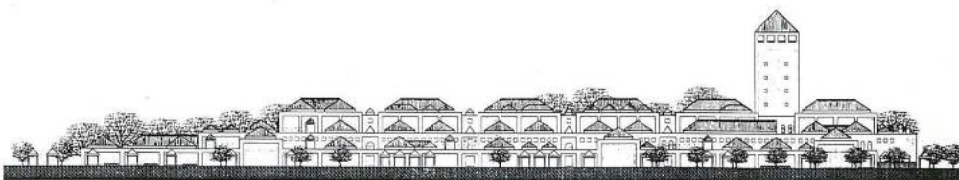
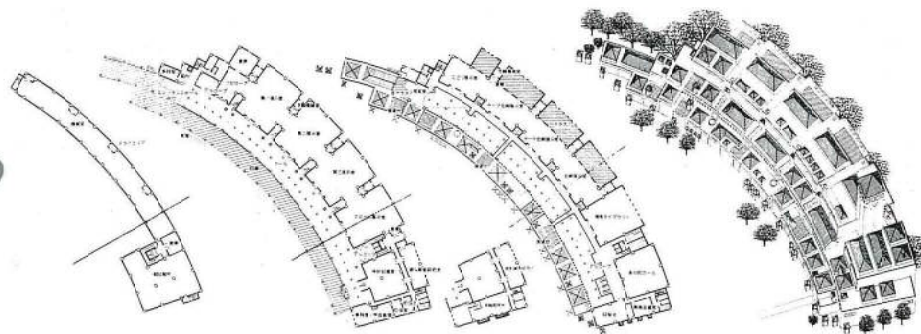
この地域においては、戦争によって亡くなった人々の名前が刻まれた「平和の礎」が最も重要なものであり、それに従う形で（平和の礎を中心とし、その同心円状に）配置されるべきと考える。前述べたように8000㎡という大規模な建築物をスケールダウンさせ、「平和の礎」に準ずる為には、建物の大半を地下に埋めることも提案されるが、見学者数の安定と、建物への接近を易くすること、建物周囲及び地上部の緑化（植樹）の困難さ、その他様々な建物管理上の問題を考慮した場合、建物を地下に埋めるのは問題が多い。

展示室、多目的ホール、収蔵室等の要求された部屋は割合大きい。しかし、できるだけ低層とし、設備、取蔵など、普段はあまり使われない部屋は地下に設けながら、地上部の建物がスケールダウンして見えるように、小さな屋根を多くもつ建物の集合、つまり集落的な雰囲気をもつものを計画する。

つまり多くの博物館、美術館、記念館が為政者の立場の建築表現をとるのと反して、民衆的立場を感じる建築表現とする。

3 敷地利用に関する提案

基本的には現状の地形を保護する形で建物を配置する。建物への自動車接近と駐車場の確保のため、幾分か北側の盛土部分をカットすることになるが、「平和の礎」に対して、緩やかな斜面を残すこととする。敷地周辺の土地も現状のままとする。



総務部



名称：沖縄県東京事務所
わしたショップ改修工事
所在地：東京都
工期：H7.12.25～H8.1.31
構造：—
延面積：—
総工事費：5,356千円



名称：県庁舎新議会棟周辺設備工事
所在地：那覇市
工期：H7.2.20～H7.6.20
構造：—
延面積：—
総工事費：603,696千円

生活福祉部

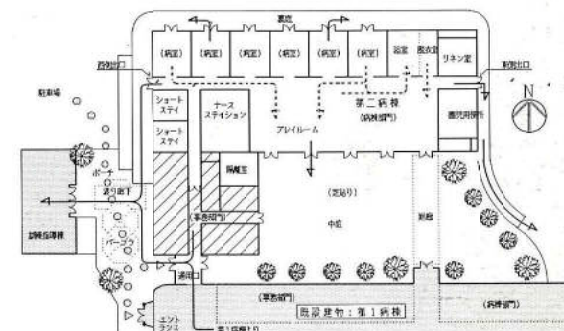


名称：健児之塔便所新築工事
所在地：糸満市
工期：H7.12.29～H8.3.25
構造：RC造地上1階
延面積：23㎡
総工事費：22,248千円

名称：沖縄療育園第二病棟新築工事
所在地：浦添市
工期：H6.9.12～H7.6.8
構造：RC造地上1階
延面積：1,171㎡
総工事費：414,778千円



本施設は、重度肢体不自由及び重度精神薄弱が重複している児童（者）を保護し治療及び、日常生活指導を目的とする施設である。
入所している園児（者）は生涯この施設で過ごす為、今までの施設にありがちな閉鎖的なものではなく、健常者と同様な生活環境をあえられる、「明るく快適な生活の場」を設計理念とする。



・中庭は芝貼りとし、園の行事等に多目的に対応できる様にする。
・植栽は草花を中心とし、高木は枝ぶりが良い物を選定（木陰）、ポーチ側パーゴラには蔓類で緑の日除けを、中庭の一部には果実の樹を植えて実のある喜びを園児に感じとってもらおう。



環境保健部



名称：精神障害者通所授産施設
(てるしのワークセンター)

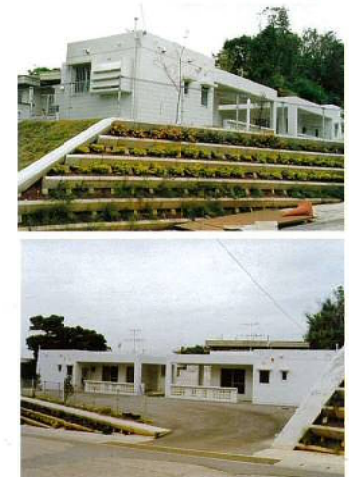
所在地：南風原町
工期：H7.9.29～H8.3.25
構造：RC・S造地上1階
延面積：714㎡
総工事費：198,589千円



敷地へのアクセスは、4メートルにも満たない道路から坂道を昇って行かざるを得なく、毎日通う人々にとっては、負担を強いることとなるが、切り妻の瓦屋根や、大きく手を広げた建物の外壁ウイングが、次第に姿を現わし、優しく導き入れるような外観を計画した。
本館の平面計画は、1階にパン工場、陶芸工房、事務室、2階に会議室、食堂室、休憩室を配置し、1階と2階のインターフェイスとして、エントランスロビーを吹き抜けの空間とし、連続性を高めている。
また、ロビー南北面に開口部を設け、南北軸の透明性を高めることにより、敷地に対し、「抜け」の空間を設けた。
さらに、南面開口部には、色ガラスの破片をモザイク状にはり合わせた簡易ステンドグラスを計画しているが、これは障害をもった人たちの手により制作されている。



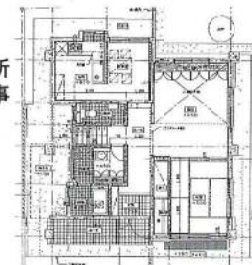
景と村の2棟の宿舎が互いの生活感を確認しあうことによって、安全が保てるよう共有する広場を中心に居間が対面するシンメトリプランを配置した。また、独立したキッチンや、トイレ、バスルーム、洗面所にゆとりをもたせ、籠居でのプライベートタイムの演出も図っている。さらに、玄関と居間に面して1坪程の中庭を設け、日常時や台風等の厳しい天候の際にも静かな外部空間を提供している。強い日射しと真黒の影のコントラストを生み出すため、平面的に建物を雁行させ、居間の前面に深い軒先を設けることによって時間と共に壁面等が変化することも意図してある。



名称：伊江駐在保健婦宿舎整備工事
所在地：伊江村
工期：H7.9.27～H8.2.23
構造：RC造地上1階
延面積：50㎡
総工事費：16,995千円

病院管理局

名称：県立渡名喜診療所
医師住宅新築工事
所在地：渡名喜村
工期：H7.9.22～H8.3.4
構造：RC造地上2階
延面積：88㎡
総工事費：34,196千円



名称：県立津堅診療所
医師住宅新築工事
所在地：勝連町
工期：H7.9.23～H8.2.19
構造：RC造地上1階
延面積：80㎡
総工事費：38,110千円

